

2014年12月26日

各位

会社名 株式会社 キャンバス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号:4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 最高財務責任者兼管理部長
加登住 眞(電話 055-954-3666)

CBS9106 開発に関する Stemline 社とのライセンス契約締結のお知らせ

当社は、本日開催の取締役会決議に基づき、Stemline Therapeutics, Inc. (米国ニューヨーク州、以下「Stemline 社」)との間で、当社が創出し前臨床試験を終了している抗癌剤候補化合物 CBS9106 の開発に関するライセンス契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

当社独自の細胞周期表現型スクリーニングを用いて創出した抗癌剤候補化合物 CBS9106 は、核外輸送因子 CRM1 (XPO1) ^{※1} を可逆的に阻害し、多発性骨髄腫を含む幅広い癌細胞株に対して細胞周期停止およびアポトーシスを誘導する低分子化合物です。当社がかねてから、CBS9106 を有望な新規抗癌剤候補化合物であると考え、先行パイプライン CBP501 (臨床第2相試験完了)に続く2つめの開発パイプラインとして前臨床試験 ^{※2} を進め、IND申請に必要なデータの収集を終えておりました。

本件ライセンス契約に基づき、当社は Stemline 社に対し、CBS9106 およびその類縁化合物の開発・製造・商業化にかかる全世界(ただし日本および中国・台湾・韓国を除く)における独占的な権利(サブライセンス権を含む)を供与します。

その対価として当社は、Stemline 社から契約一時金として10百万円を受け取るほか、以降4年間にわたる技術アドバイザーフィー、開発進捗に応じたマイルストーンペイメント、ならびに上市後の売上高に応じたロイヤルティを受け取ります。

技術アドバイザーフィーおよびマイルストーンペイメントの総額(順調に開発が進捗した場合の上限額)は、約107億円(1米ドル=120円換算)となります。

その他の契約条件(ロイヤルティ料率等を含む)は公表していません。

なお、本件ライセンス契約に基づき、CBS9106 は今後、Stemline 社の開発コードネーム SL-801 が付されます。

当社代表取締役社長 河邊拓己は、本件ライセンス契約の締結にあたり、次のように述べています。

「CBS9106 開発にかかるライセンス契約を Stemline 社と締結できたことを、大変嬉しく思います。長期間にわたる真摯なデューデリジエンス調査を通じて、同社の実力ある経営チーム・開発チーム・サイエンスチームに CBS9106 への理解を十分に深めていただきました。今後当社は、CBS9106 開発のライセンサーとして Stemline 社に継続的な技術アドバイスを提供するなど同社と緊密に連携し、CBS9106 の迅速かつ円滑な臨床試験の進行をともに目指し、一日も早く患者様のもとへ画期的新薬をお届けできるよう努めてまいります。」

Stemline 社 CEO(最高執行責任者) Ivan Bergstein, M.D. は、次のように述べています。

「キャンバスが獲得してきたデータは、CBS9106 が標的分子に効果的に作用し広範囲の癌腫に強い抗腫瘍活性を有することを、非常に高い説得力で示しています。キャンバスはこれまでの CBS9106 開発において素晴らしい仕事を積み重ねており、当社は、今後彼らとともにこのエキサイティングな化合物の開発を進めていくことを楽しみにしています。」

《Stemline 社について》

Stemline 社(Stemline Therapeutics, Inc.)は、癌幹細胞とその他の癌細胞の双方を標的とする独自のアプローチで抗癌剤開発を行っている、米国 NASDAQ 上場の創薬ベンチャーです。

ティッカー: \$STML サマリー情報(Yahoo.com) <http://finance.yahoo.com/q?s=STML>

同社の先行化合物 SL-401 および SL-701 は、いずれも臨床第 2 相試験の段階にあり、高い臨床効果を示しています。また、後続パイプラインとして前臨床試験段階の化合物 SL-501 および SL-101 を有しています。

詳細は、同社ウェブサイト <http://www.stemline.com> をご参照ください。

《キャンバスについて》

キャンバスは、細胞周期表現型に着目した独自の創薬プラットフォームと機動的な基礎研究チーム・臨床開発チームを有し、自社創出化合物の新規抗癌剤開発を目指す、創薬ベンチャーです。

今回 Stemline 社とのライセンス契約締結に至った前臨床試験段階の化合物 CBS9106(SL-801)のほか、非小細胞肺癌と悪性胸膜中皮腫を適応とした臨床第 2 相試験をいずれも終了している先行パイプライン CBP501 についても、製薬企業等とのアライアンスもしくは自社単独での次相臨床開発を目指しています。

CBP501 は、臨床試験結果の解析をきっかけに、既に発見されていたカルモジュリンへの作用により、癌細胞のみならず、「癌微小環境」「癌免疫」「癌幹細胞」に関わる広範な作用を有することが明らかになりつつあります。

※1 CRM1 (XPO1)

核外輸送シグナル(NES)を持つ輸送基質(蛋白質、mRNA-蛋白質複合体)を核から細胞質へ輸送する役割を担う、細胞内因子のひとつです。

CRM1により制御される輸送基質には癌関連因子(I κ B、p53、FOXOs)が含まれており、これらの核外輸送を抑制することで機能を促進し、抗腫瘍効果を示すと考えられています。

XPO1は、CRM1の別称です。発見された当初はCRM1と呼ばれていましたが、のちに上記の機能が明らかとなり、これを表す名称としてXPO1とも呼ばれています。

※2 前臨床試験

許認可当局へのIND申請(臨床試験実施申請)に必要なデータを収集するために規制当局の定めた基準に則って実施される非臨床試験を指します。

以上